

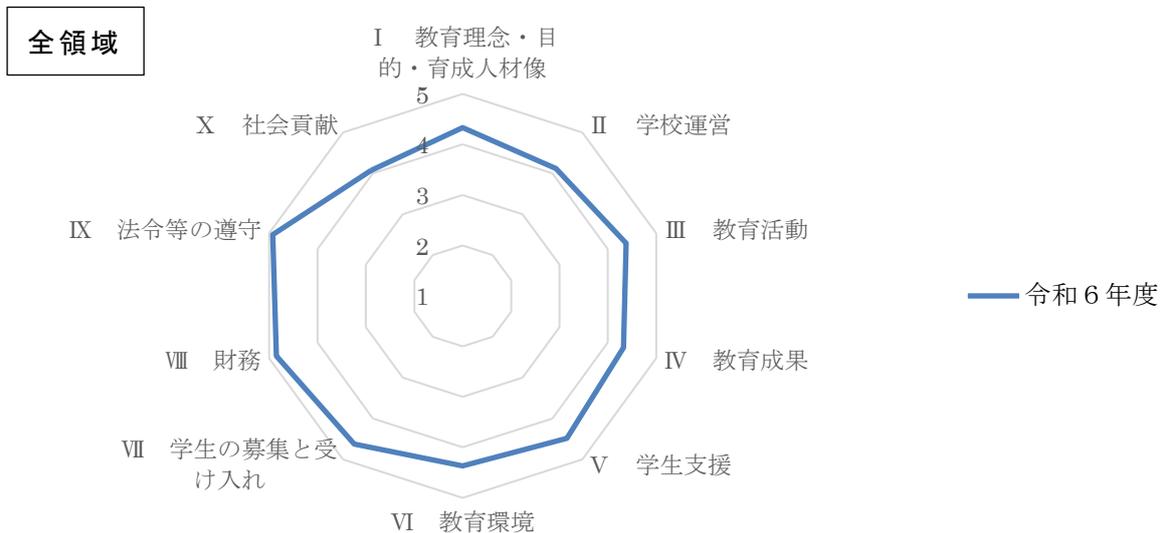
鹿児島県医療法人協会立看護専門学校自己点検自己評価
～令和6年度まとめ～

1. 本校における自己点検・自己評価についての取り組み

本校では、令和6年度の学校自己点検・自己評価の結果を受け、令和7年度の重点目標に「学生支援の向上」と「組織力の向上と自己研鑽」を掲げた。令和6年度は1年生から3年生全ての学年における新カリキュラム実践の初年度となり、新たな科目について教員間で話し合い、検討しながら実践を積んでいった。Z世代と言われる学生の特徴をふまえながら、教職員間・学校関係者との共有連携を図ること、学生の自己学習能力を高めること、社会人基礎力を高めることに努めた。年度末に活動目標に沿った各自の教育実践や業務を振り返るとともに、学校評価を実施し評価報告書としてまとめた。

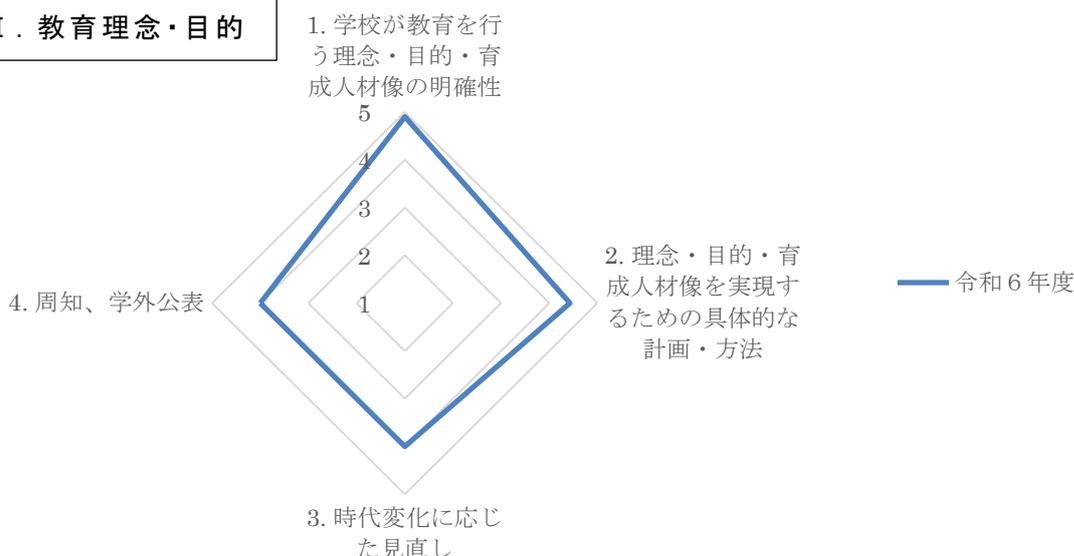
2. 自己点検・自己評価結果（令和6年度）

以下は領域（I～X）毎にその平均値を図に示した。



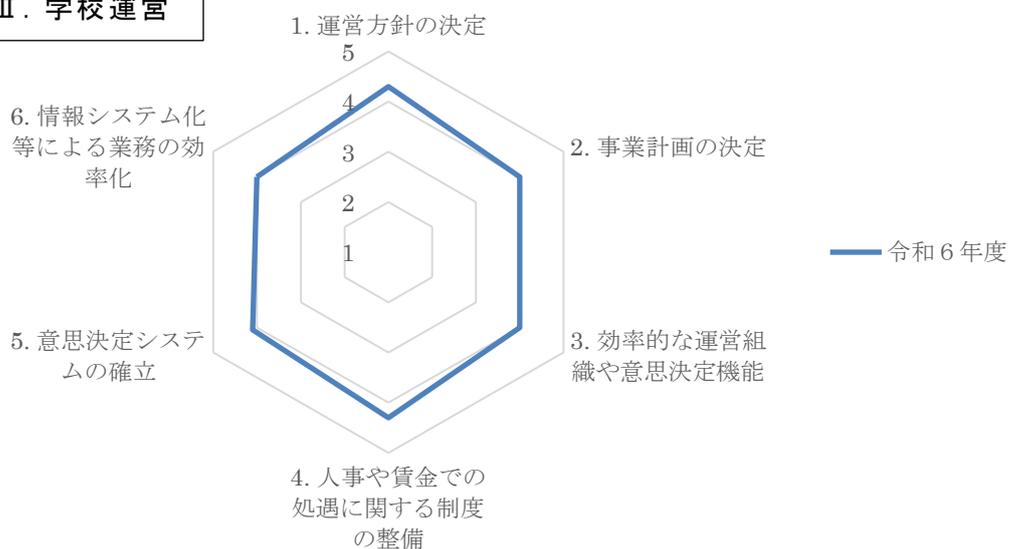
次に、各領域について評価された数値を点検項目別に集計し平均値を出し、振り返りを行った。

I. 教育理念・目的



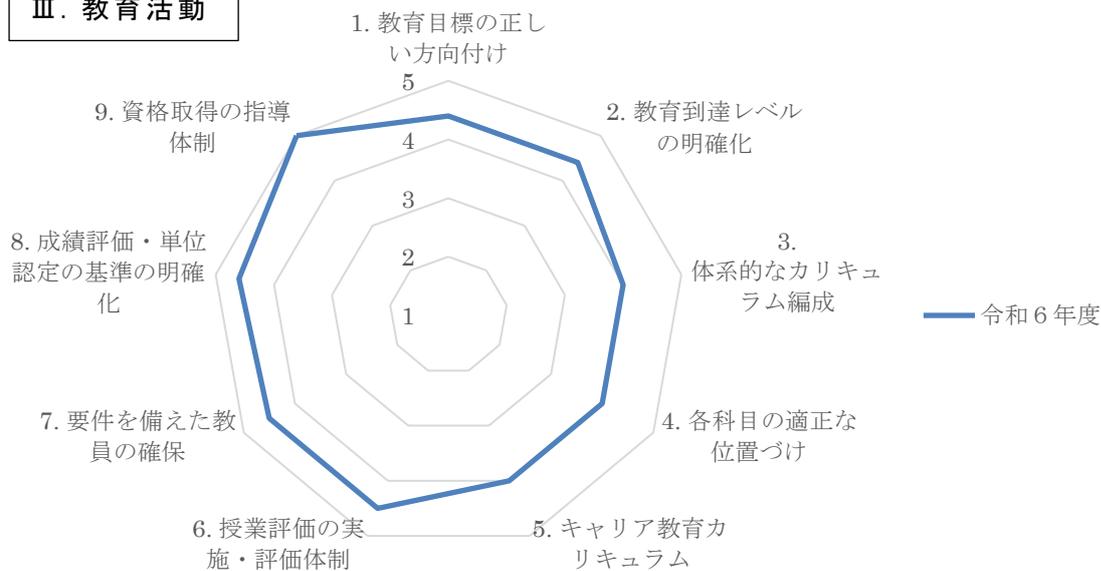
教育理念・目的・育成人材像については、設置主体及びその目的からくる教育理念等をオリエンテーション及び学校行事等でも学生に伝えた。また会議等を通してカリキュラムの理解や学生の現状について共に考え、社会状況の変化をふまえて当校の理念から広がる教育活動を行った。これらによって学校が目指す「地域で生活するすべての人を対象に看護を実践し活躍できる能力を育成すること」の具体的な計画・方法が教職員に共有された。

II. 学校運営



学校は看護師養成所指定規則に則り学校運営方針、組織図、年間事業計画を定め運営している。学事法制課の令和6年度現地調査では適切な運営と認められた。学内では学校運営会議・職員会議・教務会議・各係り会議等の定期的開催に加え場や時間を工夫した小会議を行った。学校での多重業務の中で、教員間の情報共有や業務効率化については引き続き工夫を検討していく。

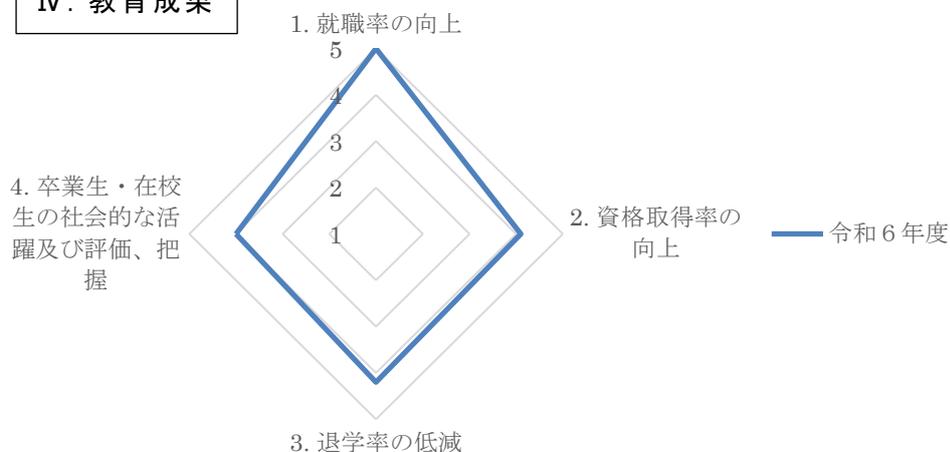
Ⅲ. 教育活動



新カリキュラムの3年次では領域横断の「総合技術」や学生自身の実習体験を活用した「倫理の探求」等、新たな科目が始まり、教員間で教育内容や方法を検討しながら実践していった。また専任教員は自分の授業評価を行い年度末に教員間で共有し教育方法など互いに活用している。今後は専任教員の授業に限らず全ての科目の授業評価を行いカリキュラム運営の検討につなげていく。

令和6年には鹿児島県で専任教員養成講習が開催され、当校からも1名受講した。さらに教育実習生の受け入れや講師派遣をすることで、学校側も教育に関する知見の向上をはかることができた。

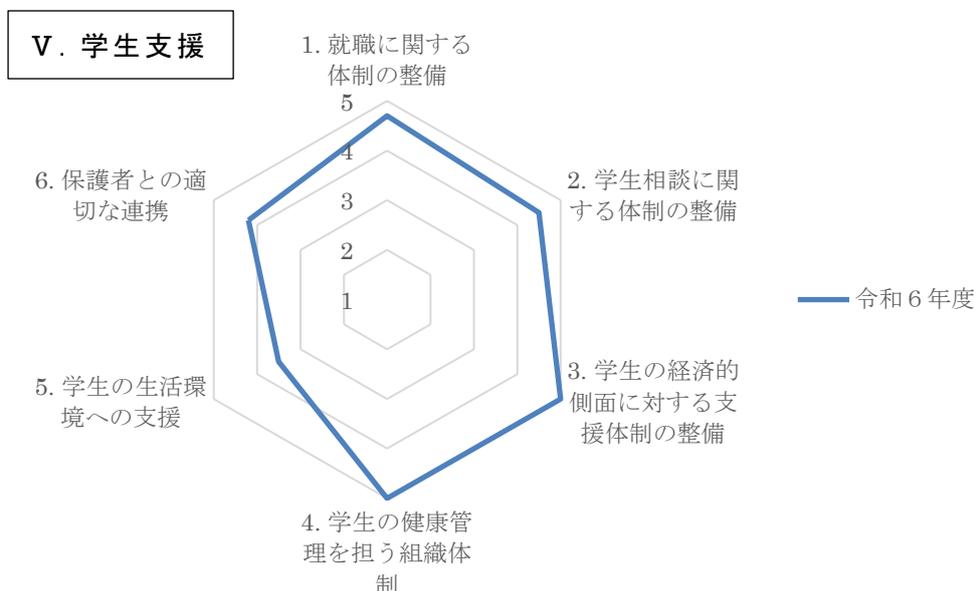
Ⅳ. 教育成果



医療法人協会の理念に基づき、地域で活躍する人材育成につながるよう協会会員の病院説明会を実施し、学生の意思を尊重しながら就職の支援を行っている。鹿児島県内就業者を数多く輩出し、就職率も100%と就職率の維持向上が図られている。

資格取得に関する指導を低学年から個別の状況に応じつつ行い、令和6年度看護師国家試験は全員合格であった。

3年間の学校生活の中では、学生が様々な状況の中で悩むことも多く、本年度は1・2年生から複数の退学者があった。本人、保護者とも面談を重ね、本人の自己決定を支援するようかかわってきた。早期に個別の学生状況を把握するよう努め、分析し思考・感情・行動への教育的かかわりができるよう教員間で共有した。今後も学生が自らの目標に向かい前進できるよう、教員の支援力を高めていくよう努めていく。



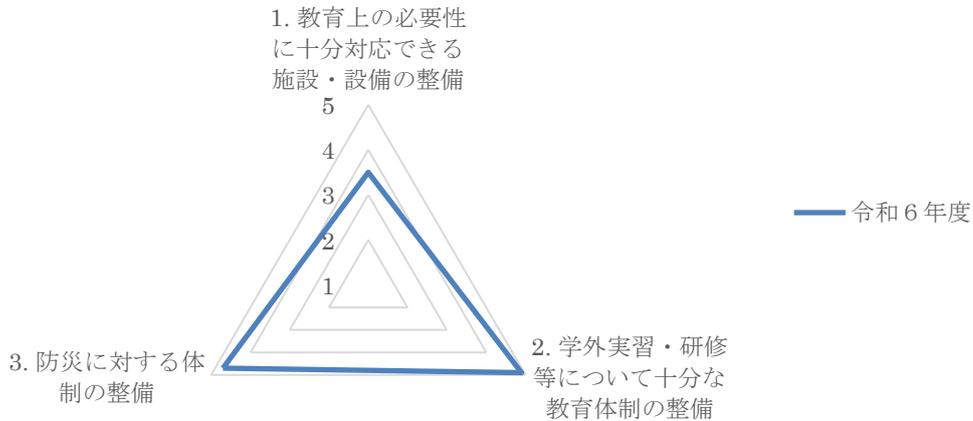
就職や学生からの相談に関する体制、経済的支援体制は整備されている。

新型コロナは5類に移行したが、感染予防対策は継続して行い学内での感染拡大は起こらなかった。学生の健康管理については健康診断および体調管理の指導等を継続して行った。

「学生の生活環境への支援」については学生寮などの生活支援についての項目である。寮や学校バスなど交通支援がないため他の項目に比べ低い値となっているが、自家用車での通学生も多く、学内には無料の学生駐車場を整えている。

保護者との連携は入学時の保護者会後も成績不振、単位未修得の学生について早めに面談を行い対応した。保護者との情報の共有は、学生の理解を深め支援を連携するうえで重要であり、今後も保護者と協力しながら学生と関わるよう努めていく。

VI. 教育環境

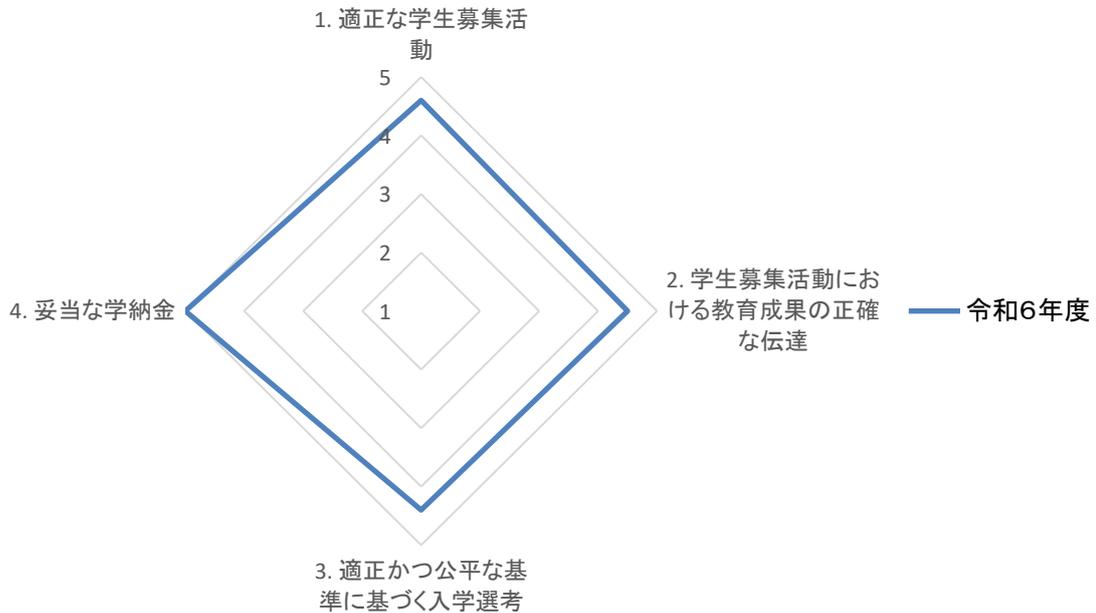


施設・設備の安全点検は規定通り計画実施し、空調設備の大規模な修繕も行ってきている。経年劣化もふまえて今後も継続的に空調設備等、施設・設備の整備をおこなっていく。

教育体制については美術館での芸術鑑賞、フィールドワークなどの学外学習を実施した。また関係機関と連携して実習を円滑に行うことができた。学生が自身の五感を通して体験をする実習は、学生の心を動かし自身の内省を経て深い学びとなる貴重な経験であり今後も継続していく。

防災訓練も年に2回実施している。

VII. 学生募集と受け入れ

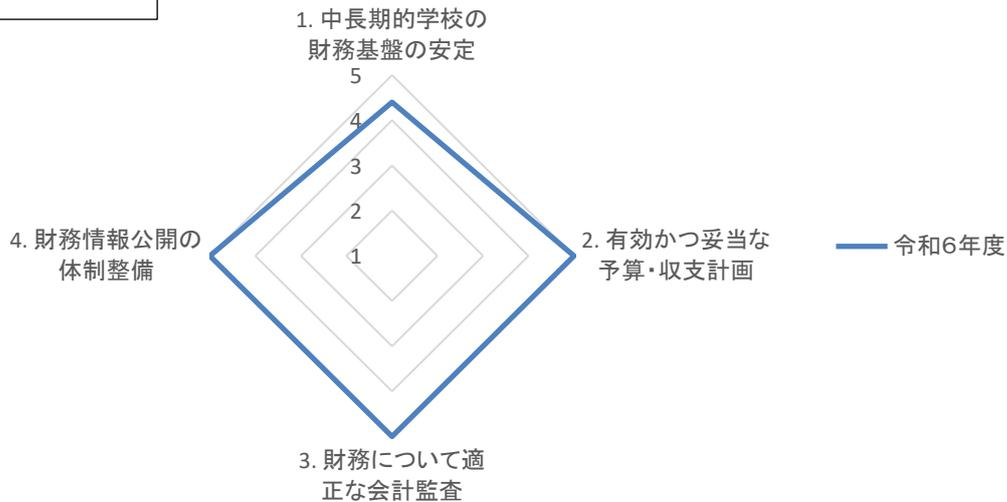


令和6年度は新入生が大幅に減少し、学生募集は喫緊の課題として取り組んだ。18歳人口及び社会人の受験者減少は社会変化の影響が強いと考えるが、当校の知名度向上と看護師の魅力を感じてもらうことを学生募集の重点対策として取り組んだ。学校見学や学校説明会、高校訪問や外部ガイダンスの実施、在校生主体のオープンキャンパスは2回行い、広告場所も拡大し、受験料免除の仕組みも整えた。

入試は推薦・社会人入試のほか一般入試VI期まで行いその結果、定員に迫る充足状況となった。

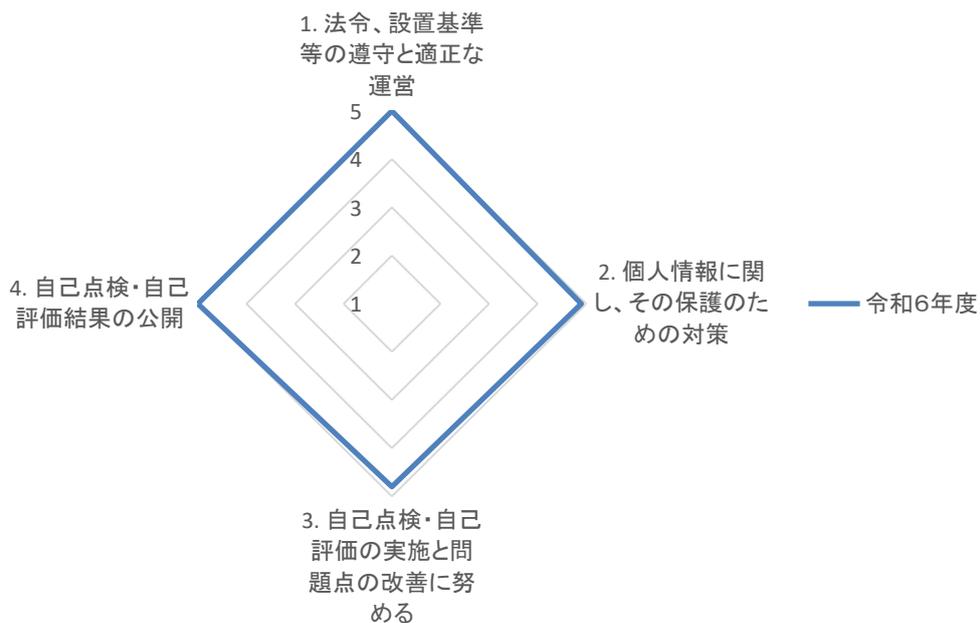
実習施設の実習費等全般的に物価高騰であるが、学生および保護者の負担感等を考慮し、増額せず従来の分納制度を継続している。

VIII. 財務



学校設立の趣旨・目的・目標に則った学校の事業計画を含め設置主体である法人全体の事業計画をたて、設置主体の総会において当該計画に従って事業執行されていることを承認された。看護専門学校と法人全体の貸借対照表、損益計算書、収支予算書を作成し、財務その他学校を含めた法人の運営状況について監事による監査を受けている。また過去5年間の財務情報については、事務所において公開している。なお、業務分掌や組織体制も年度ごとに見直し、学校の健全な管理運営に努めている。

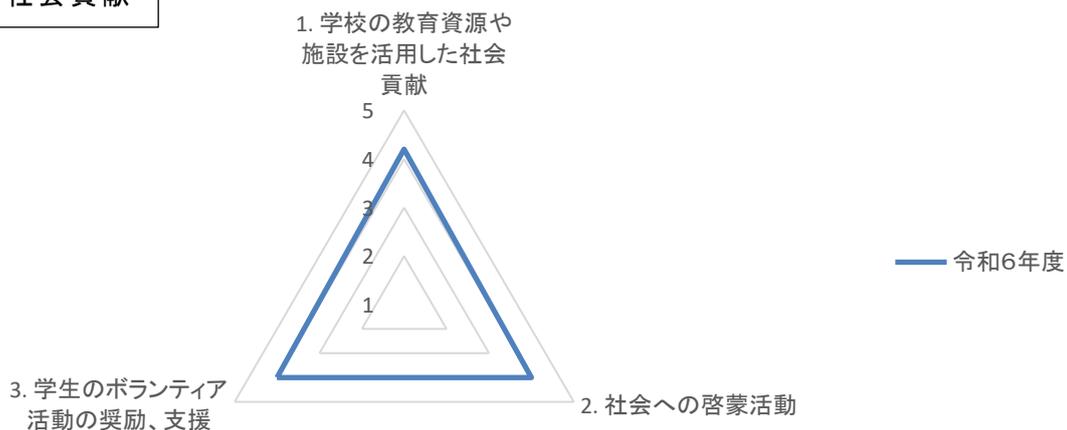
IX. 法令等の遵守



看護師養成所指定規則や専修学校設置基準等を遵守した運営を行い、教職員・学生等にも周知した。現代社会で問題となっているSNSにおけるリテラシー向上となるよう、オリエンテーションや講義・講話を全学年に継続して行った。

学校自己点検・自己評価、学校関係者評価も行い、特に学校関係者評価では多方面の方から様々な助言をいただき、学校運営に活かしている。今後も学校を支援してくださる方々の協力を得て学校運営に努めていく。

X. 社会貢献



当校は地域住民からの要請により指定避難所となっていること、地域の保育園の避難先として訓練を受け入れ、地域の安心安全ネットワーク会議に参加し社会貢献に寄与している。コロナ禍以後初めて対外的にも開かれた学校祭を行い、学生同士の親睦が深まり地域の方々に学校の様子を知ってもらうことができた。

また看護協会の啓蒙活動に学生がボランティアとして参加した。今後も感染予防対策やカリキュラムとの兼ね合いを調整しながら、学生のボランティア活動を支援していきたい。

3. まとめ

令和6年度は、第5次カリキュラムを初めて全学年で実践した年であり、このカリキュラムの中で学んだ学生が「地域で生活する人を看護する」という視点をしっかりもって成長したことを実感した。また、新型コロナの影響が残りながらもボランティアや学校祭、芸術鑑賞等、外部との交流活動を拡大することができた。

学生募集については厳しい現状が続くと予測されるが、当校の魅力を発信できる効果的な広報を検討していく。また入学した学生がさまざまな悩みや困難に向き合うとき、保護者との連携も重要となる。学生本人が表出できない感情や状況を保護者との連携により把握しながら、学生自身が考え自己決定していけるようかかわりができるよう全教員の教育力向上に取り組んでいきたい。